

新ミュージアム散歩

シンガポール国立博物館 特別展

AN OLD NEW WORLD :From the East Indies to the Founding of Singapore, 1600s-1819

(ラッフルズ上陸200年記念特別展:知られざるシンガポール黎明期の記録)

Image courtesy of the National Museum of Singapore

2019年は、イギリス東インド会社の社員だったスタンフォード・ラッフルズとウィリアム・ファークアーがシンガポールに上陸した1819年からちょうど200年という記念すべき年で、シンガポールでは、『バイセンテニアル(Bicentennial)』と銘打つ催しが様々な場所で行われていました。現在シンガポール国立博物館にて開催中の特別展【AN OLD NEW WORLD】もそのひとつ。この特別展では、400年以上前の大航海時代まで遡り、シンガポールからの視点だけではなく、よりグローバルに、ヨーロッパから見た東インド諸島(現在のシンガポール、マレーシア、インドネシア)に焦点を当て、フランス国立自然史博物館をはじめ、ロンドン国立海事博物館、アムステルダム歴史博物館、アムステルダム国立美術館などその他多数のシンガポール国内外のミュージアムの協力を得て、プライベートコレクションを含む220点の貴重な展示品が一堂に会し、ヨーロッパ諸国の東インド諸島への熱狂と情熱、興奮が伝わってくるようなダイナミックで素晴らしい展示になっています。中には、200年ぶりにシンガポールに里帰りすることになった貴重な資料もあり、必見です。

《プロローグ ワイドスクリーン映像》



Image courtesy of the National Museum of Singapore

ギャラリーに一歩足を踏み入れると、そこは17世紀のインドネシアのアチェ。

180度のワイドスクリーンに映写されているのは、1602年イギリス東インド会社から初めて東インド諸島へやって来たジェームス・ランカスター卿率いる船が、インドネシアのスマトラ島北西端に位置するアチェに到着してみたところ、『そこには既に様々な国の船が停泊し、港として栄えていた。』というとても印象的なシーンから始まる映像になっています。これは、まさにこの特別展のタイトルである【AN OLD NEW WORLD】を象徴するシーン。初めて足を踏み入れた《NEW WORLD》は、既に繁栄していた東インド諸島という《OLD WORLD》でした。

いわば、East Meets West ～ここからこの展示のストーリーが始まります。

《展示 Zone》

ギャラリー内は、テーマごとに6つのZoneに分かれ、展示を見ながら、大航海時代の船に乗り込むような臨場感や高揚感、また、当時の東インド諸島に上陸したような気分を味わうことができます。



Image courtesy of the National Museum of Singapore

《ギャラリー内 Zone1遠景》

《Mapping Our World 地図から見えてくる世界》

最初のZoneは、航海に必要な地図と海図の展示です。

地図というのはどれだけその国や土地、海域について知り得ているか?ということであり、その国や土地、海を制覇した。またはすることが出来る。というような意味合いも含み、自国の国力をも誇示することでもあることから、国家最高機密でありました。

また、その場所がどこで、どういう地形をしているのかを示すだけではなく、作成した人々や国がその土地をどのように捉えていたのか、何を重要だと思っていたのか、なども反映されており、そこから歴史を紐解くことが出来ます。

大航海時代に作成された地図を見ると、東インド諸島は、ヨーロッパ諸国にとって中心的なテーマとなっていたことがわかり、いかに商業的、戦略的に重要だったのかがわかります。では一体、これらの地図を作成するための情報はどのように収集されたのでしょうか?

実は、海に精通し易々と航海をしていた原住民の知識から得られたものでした。特に重要だったのは、東インド諸島、特にマラッカ海峡とシンガポール海峡にかつて存在した海の民族であり《オランラウト》と呼ばれる水上生活者たちから得られた知識でした。彼らはこの近辺の海域にとっても詳しく、地図を作成する上ではもちろん、航行する船にとって、浅瀬や入り組んだ入り江が多いこの海域において必須の水先案内人でもありました。



Image courtesy of the National Museum of Singapore

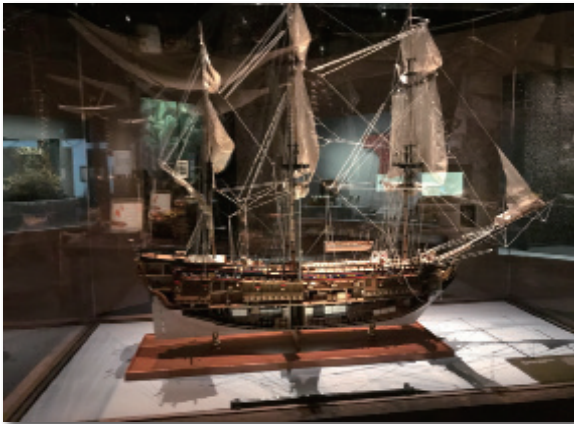
《リンスホーテンの東インド諸島の地図、1595年》

この地図は、今回展示されている地図の中で最も古く約420年以上前に、オランダ人リンスホーテンにより作成されました。彼は、ポルトガルの支配下にあったインドの都市ゴアで大司教に5年間仕えていましたが、その雇用期間中に、ポルトガルの情報源から東インド諸島の航海ルートについて重要な情報を入手し、この地図を作成しました。この地図は、1595年のオランダによる最初の東インド諸島への遠征に使用され、1600年イギリスが東インド会社を設立し、東イ

インド諸島へ進出する際には、この地図の写本が使われました。

このように、スパイのように情報や写本を手に入れるなど、各国の東インド会社間では、地図をめぐる激しい攻防戦が繰り広げられていました。

《Spices for the Market 香辛料の市場取引》



筆者撮影

《50分の1 船体の断面を見せたFalmouth号の模型》

大航海時代、ヨーロッパ諸国の東インド諸島への進出の主な目的は何だったのでしょうか。

ひとつは、《スパイス(香辛料)》を手に入れることでした。そのため、ポルトガル、スペイン、イギリス、オランダのちにフランスも、東インド会社を設立し、スパイスを手に入れるためのぎを削るようになり、中でも、東インド諸島でしか手に入らなかったナツメグやクローブは、その貴重さゆえ、東インド諸島に対するヨーロッパ諸国の侵略やオランダによる残虐行為が行われてしまったほどです。

《Natural history 博物学、自然史》

また、商業的な目的だけではなく、Natural history(動物界、植物界、鉱物界)を研究する博物学者たちにとっては、東インド諸島に自生する動植物は、自然への探求や発見、種の特定、記録への意欲と関心を高揚させるものでした。

このように東インド諸島は、ヨーロッパ諸国にとって、香辛料や天然資源の宝庫であり、ユートピアで、特に博物学者たちにとっては、未知の世界を探索させてくれるワクワクするような魅力溢れる土地でありました。



Image courtesy of the National Museum of Singapore

《シンガポールで採取したトゲヤマガメ 1819年頃の博物画》

最後にご紹介するのは、フランス博物学者であるアルフレッド・デュボースによる、現在はワシントン条約の絶滅危惧種に指定されている《トゲヤマガメ》の博物画です。

このような博物学者により詳細に描かれた動植物の博物画は、カメラや写真がない時代においての唯一のヴィジュアル・データベースであり、貴重な資料でした。

左上には、《Singapore》と書かれています。これは、この博物画が、1819年5～6月、フランス博物学者であるアルフレッド・デュボースとピエール・ディアールが、ラッフルズの探検隊と一緒にシンガポールへ探索旅行に訪れたときに描かれたもの、ということの証。まさに、200年ぶりにシンガポールに里帰りしている展示品です。

またこの博物画により、《トゲヤマガメ》は、マレーシア・ペナン島周辺を産地とするタイプ標本となりました。

他にも素晴らしい貴重な展示品が多く、紙面のスペース上これ以上ご紹介出来ないのが残念です。

ぜひ、この機会にシンガポール国立博物館に足をお運びください。

<ミュージアム日本語ガイドグループ 澤田洋子>

◆ミュージアム無料日本語ガイドツアー◆(予約不要)

【シンガポール国立博物館】 93 Stamford Road

<https://www.nationalmuseum.sg/>

・常設展「ヒストリーギャラリー」:月～金曜10:30～ 第1土曜10:30～

・アートツアー:月・火・木曜 (週3回)13:00～

・特別展 An Old New World: From the East Indies to the Founding of Singapore, 1600s-1819

「ラッフルズ上陸200年記念特別展:知られざるシンガポール黎明期の記録」(3月29日迄 地下1階特別展会場)

水・金曜13:00～ 第2、4土曜10:30～

【アジア文明博物館】 1 Empress Place

<https://www.acm.org.sg/>

・常設展ハイライト:月～金曜10:30～ 第2土曜13:30～

・ギャラリー別ガイド:先祖と儀式ギャラリー:第1・3火曜13:00～

:イスラミックアートギャラリー:第2・4火曜13:00～

・特別展:「Living with Ink」(3月22日迄):第1・3月曜、第2・4木曜 13:00～

シンガポールビエンナーレ2019(3月22日迄)

<https://www.singaporebiennale.org/>

【ナショナルギャラリーシンガポール】1 St Andrew's Rd

日本語ガイド:月～木曜10:30～

集合場所:地下1階 VISITOR SERVICES入口前

ツアー参加には登録が必要です。集合前にVISITOR SERVICESカウンターへお立ち寄りください。

【ギルマンバラックス】9 Lock Rd

日本語ガイド:金曜(週1回) 13:00～

集合場所:Block 9 玄関前ベンチ付近

<https://www.gillmanbarracks.com/getting-here/gillman-barracks-map-pictures>

【シンガポール美術館】

<http://www.singaporeartmuseum.sg>

シンガポール美術館は改修工事のため現在閉館中。

【プラナカン博物館】

<http://peranakanmuseum.org.sg/>

プラナカン博物館は改修工事のため現在閉館中。

<ホームページ>

ミュージアム日本語ガイドグループ 公式ブログ <https://jdguide.exblog.jp/>

公式Facebookページ <https://www.facebook.com/Singapore.JD.museumguide/>

◆ミュージアム日本語ガイドグループ 4月期新規メンバー募集 入会説明会◆

日時:3月9日(月) 10:15～1時間半程度

場所:シンガポール国立博物館 2F Seminar Room

お気軽にご参加ください。(予約不要)

* お子様連れでのご参加はご遠慮ください。

<入会に関するお問い合わせ> jdtrainingcontact@yahoo.co.jp